

爲に海律全書二巻を贈つた功績と、これに對する洒五樽の善根ある和境の地なる爲かとも想はれる。

私は何故これ程迄にこんな事を言ふのであるか。それは云ふまでもなく「過去の因を知らんと欲せば現在の果を見よ」と云

正しく強き信仰をもつて

梅 津 榮 希

最近宗教復興の聲と共に、諸種の宗教運動が叫ばれて來た事は、我々にとつて特に注目すべき項目の一つである。宗教復興の叫びと新興擬似宗教の續生、それは如何なる原因で發生し、更に何を物語つて居るのであらうか、現在の社會が政治的にも經濟的にも思想方面にも、我々の日常生活に對して何一つ満足を與へて居ない、その精神的不安が宗教復興の叫びとなり、新興宗教の發生と成つて、その弱い本能が刹那的の安息所を轉々之等に求めさせて居るのではなからうか。

最近の統計によると、佛教、神道、キリスト教以外に四百廿余の新興擬似宗教が成立されて居り、その大なるものは、數百萬人の信徒を持つて居るのであるが、それ等が國民としての義務を完ふし、世の中の安寧秩序を亂さない限り宗教の自由を認めらるゝ今日之を排斥し彈壓する事は不可能だとは言ひながら

正しく強き信仰をもつて

ふ因果の理法に依つて、目の前にまぎ／＼見せつけられた歴史の因縁因果の恐ろしさに戰慄したからである。私はそれを想ふ時、常に函館戰爭と現在市民と云ふ事をもつと深く考へさせられるのである。

之等を冷靜な態度で批判し、内容を具さに検討するならば、容易にその弊害のあることを認めらるゝのである。

例へば「人の道」「生長の家」等にあつては、總べての禍難がお振替によつて逃れる事が出来るとか、教書を讀む事によつて病氣が全快するとかと説いて、之を唯一の金看板として居る、然もその信者の多くが、中商工業者、サラリーマン、退職官公吏等所謂半ブル又はインテリ級に多いと云ふ事實は何を物語るのであらうか、それは物質的貧困者ではない彼等の老病死に對する精神的不安を除かうとする人間本能の相なのである。

然し此の時我等は冷靜に嚴正なる批判と判斷とに訴へ正しき宗教を求め、その宗教に依つて強く正しい信仰生活に生きねばならない。

正しき宗教正しき信仰と、肉体的な病氣を治す、それがその

二四五

本分全体ではなく心の病、即ち精神的の迷盲、不安を完全に除く、それが眞實の正しい宗教としての價值ある宗教なのではなからうか。

我々が若し肉体的な病氣にかゝつたとしたなら、早速醫者へ走るであらうが、その反面、宗教に對する強き信仰によつて己が精神の強化を計らねばならないのである。生者必滅が宇宙の眞理である以上、若しも死に至る様な時があつても、その死に對して平然として死んで行ける安心立命、その心を養つて呉れるのが即ち宗教の偉大なる功績であり、必要の所以でもあるのだ。

宗教の榮る時、その國家も榮え、宗教の亡びる時、その國家も亡びると言ふのは古今を通じて東西史上に明かなる事實である此の我々の生活と國家に大なる影響を持つ宗教について、如何なる宗教を選ぶべきかと云ふ事は、我々にとつて最も重要な事である。

其處で如何なる宗教を選ぶべきか、之こそ我國体に合致し、更に我々の社會、精神的兩方面の不安に對しても常に光明と解決とを與へて呉れる宗教でなくてはならぬ。それでは果してそんな宗教があるであらう？それは「日蓮ニヨリテ日本國ノ有無ハアルベシ」と叫び、更に「一切衆生ノ異ノ苦ヲ受クルハ日蓮一人ノ苦ナリ」と絶叫せられた日蓮上人の教こそ正しく夫れである、正しき教即正法華經を國民に傳へ、國家を救ひ王佛冥合の眞の國家建設のため、肉體精神の兩方面に平常人としては到底堪へ忍び難き壓迫と迫害とを堪へ忍び、然も平然、妙法の傳

道に精進せられた強き信念こそ、日蓮上人の正しき教に對する強き信仰の發露である、此の絶大な信仰の發露は權力金力あらゆるものを超越して猶余りあるものである。之に反し我々の信賴する宗教が若しも淫祠邪教に類するものならば、その及ぼす悪影響は大なるものであり、日本國民として此れ程恥ずべき事はないのである。我國體は皇室中心主義であり、其の昔聖徳太子は佛教を基礎として第十七條憲法を制定せられ、之によつて現在に至る迄の國家の威嚴と光輝ある國史とが立派に維持されて來たのである。

日蓮上人は「受ケガタキ人身ヲ受ケ値ヒガタキ佛法ニアヒテ争カ虚クテ候ベキゾ同ジク信ヲ取ルナラバ又大小權實ノアル中ニ諸佛出世ノ本意衆生成佛ノ直道ノ一乘コソ信ズベケレ」と教へられ更に「夫レ法華ト申スハ八萬法藏ノ肝心十二部經ノ骨髓ナリ」と示されて居るのを見ても法華經が如何に我々に適當せる教であるかが判るであらう。

現在の佛教は高尚な教義と、正しき人生への創造力を持つて居り乍ら宗教家の墮落と無力とに禍ひせられて、大衆の迷へる心に大良薬を投込む事が出來ないのである、此に於てか社會の人には、己が不安と焦慮の捨場所を淫祠邪教の類に求めて、憂ふるべき類似宗教の擡頭と成つたのでは無からうか。之等一切を「日蓮一人ノ苦ナリ」と絶叫せられた大上人の流を汲む諸兄よ、「二陣三陣打續ケヨカシ」の號令に強き正しき信念と破邪顯正の劍を握つて、立正の法幟空高く、國民覺醒と樂土建設とを目標して突進しやうではないか、之こそ宗教家としての大なる使命であり、國民としての根本的覺醒である。